



これからの新しき時代を

担う子どもたち



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費を含む)

2024
No.617
新年号

◎教団方針
信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ
(一) みつめなおそう明主様の心
(二) つらぬきとおそう明主様の心
(三) 教団綱領を尊び実践する
(四) 信仰継承は家族と家庭円満から

新年の『おことば』

年の始めに



光 守

救い主教祖明主様に、御神縁で結ばれた一員として輝かしい新しい年を迎えさせていただいたことに、心からの感謝を捧げ、謹んでご挨拶を申し上げます。

全信徒のみなさま、ご家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。

二〇二四年甲辰きのへつの年の新春を恙なく迎えることが出来ました御守護を、謹んで大光明、明主様の御前に、お祝いと感謝を申し上げます。

激動、激変ともいわれる昨年、また「コロナ」の被害も大変でしたが、良きにつけ、悪しきにつけ本当に目まぐるしく、事の多い年でした。

今年も目先のあれやこれや迷わず、足をよくみつめ、精一杯光守として責任を全うしてまいりたいと強く思います。

謹んで教団方針を申し上げます。

この度明主様は私を通し今年の教団方針を御自身でお書きあげなさいました『吾人類に告ぐ、私は主神より人類救済の大使命を受け、救いの光、救いの力を授けられ、今やあまねく神の愛を伝え、

神の経綸を達成せんとするものである。三界は今や正に大転換の秋迫れり、キリストの最後の審判、釈尊の仏滅の二大予言はこのことである。』とございます。そのあとのおことばをくださったのです。

人々よとお示しですが、【信徒】になさいと愛のおことばただ感謝でいっぱいです。

『信徒よ、速やかに目覚めよ、それは光を受け、邪を捨て、光を受け、正にいきることである。』

明主様は、これを達成せよと私達に仰せてございます。

明主様の叱責 真の善人とは

人間は、落ち込んでしまえば、それこそ獣けだもの、あるいは獣以下にもなってしまう。けれども、本当に向上していけば、神様にどんなにでもちかづかせて頂ける。もちろん神様にならせていただくことはできませんけれども、その神様の御心にどんなにでも近寄らせていただくことはできます。

私達はいくら人間の姿をしておりましても、心が獣と同じかそれこそ獣以下のような心にさえ落ち込んでしまう場合がありうるわけです。そういうことではいけません。

私達は逆に本当に魂を浄まらせていただき、常に神様と強い霊線をもたせていただき、神様を信じ、神様の御心に叶うように努力をしていけば、どんなにでも神様の御心に近寄らせていただくことができるのです。

例えば、獣にいたしましたも、鳥にいたしましたも、それこそ蟻などの小さな

生物、生き物にいたしましたも、ただ自分の生命を維持するための努力とか、あるいは、自分の家族だとか、自分の仲間のために一生懸命に働いているわけです。そういうことは、ああいう動物とか、昆虫などでも皆やっているわけです。

私たち人間も、もちろん自分達の生命を維持するための努力も必要でありますけれども、ただそれだけで終わってしまったのでは、これは動物とか昆虫と同じになってしまうわけです。

私達人間は、それ以上に人間でなければできないもつと高いものをいただきたいです。

昔ある動物学者の方が、動物というのはそういう家族愛とかいうのは、あるけれども、人間というのは、もつと大きな全人類というか、そういう大きな立場にたつて、本当に皆んなの幸せということを考え、そのためにすべてを、一身に犠牲にしていくことすらできるので、そこに人間の尊さがある。ということはいわれました。

結局、私達人間は、そういうもつともつと高い、神様にどんなにでも近寄らせていただける魂をいただきたいわけです。

ですからそういう魂の人間に少しでも、一歩でも近寄らせていただくように努力していきたいと思えます。そうなたた時に、はじめて、その人は本当の意味の「真の善人」と申し上げられると思うのです。



新年のご挨拶

祭主 戸塚 大介



光守様、責任役員の皆様、教師の皆様、そして、信徒の皆様、新年あけましておめでとうございます。

一昨年までの神成郷から、昨年より東京本部にて御用のお許しを頂きました。振り返ると何もかもが目まぐるしく変化する非常に濃密な年となり、まるで数年分を過ごしたような気になりました。その間苦しい事、辛い事も多々ございましたが、神様から与えられた浄化であり試練であるという心持と、何よりも多くの皆様からの温かいお心遣いにより、乗り切ることが出来ました。

そして新年を迎え、私の人生でも新たな一歩を踏み出すことになりました。それは光守のお役目を正式に引き継ぐお許しを頂いたからです。五年前、二〇一九年にもそのお許しを一旦頂きましたが、当時はその重責に耐えることが出来ませんでした。それにより多くの皆様にご心配とご迷惑をお掛けしてしまいました事、改めてお詫び申し上げます。

ですが、今は違います。昨年の様々な体験の中で、とても大事なことを学ばせて頂きました。それは、信徒の皆様を誠心誠意お守りし大切にすることです。基本的なことですが、怠ってしまったのは教団に未来はございません。なぜ、以前の私と違いこのような変化が起きたのかは上手く説明できませんが、今の私はその使命感に対する勇氣と覚悟がもてるようになりまし。勿論、知識と経験が不足していることは否めません。この令和六年はこのお役目を果たすことが出来るようになるための更なる修業期間として、より一層精進させて頂きます。また、皆様から学ばせて頂くことも沢山ございます。何よりも皆様と一緒にやってこの教団をますます元気にしてゆきたいと思っておりますので、どうか本年もよろしくお願い致します。

新年のご挨拶

代表役員 山崎明憲



明けましておめでとうございます。二〇二四年・令和六年、甲辰の年を迎えました。本年が皆様にとりまして神光あふれる幸せな年となりますよう願っております。

責任役員 窪田秀男



明けましておめでとうございます。昨年十月十五日付で責任役員の任命を頂きました、窪田と申します。私がこの教団の専従を許されたのが五年前、そして教師の資格を頂いて長岡教会長をお許し頂いたのが四年

責任役員 宮内瑠美



新年明けましておめでとうございませう。新役員のメンバーになり、新たな気持ちで今までの殻を破り皆様と一緒に教団の立て直しに励んでいきたいと思っております。

辰は「たつ」と読みますが、皆さんはどのような言葉で思い浮かべるでしょうか。おそらくどれをとりましても上昇、前進を意味する言葉が多いのではないかと思います。また、潔さ、決別などといった意味合いの言葉もあるでしょう。いずれにしても成長や新たなスタートを切るような言葉が多いと思います。今年はまだにそのような年であり、甲辰という言葉には「立ち上がる」という意味があるようです。

令和六年の「六」は火水土の「水」も意味しますが、辰は龍であり龍神でもあり水にとっても縁があります。教団は五十年を節目としてふたたび大海原をひとすじに進み始めました。明主様の御光をひとすじに求め、迷うことなく『光を受け、邪を捨て、光を授け、正に生きる』ことである『光を言葉に掲げて進んでまいりましょう。本年もよろしくお願ひ申し上げます。』



前です。生まれた時からの入信で六十才になるまで最後は信徒代表として永くこの救いの道を歩ませて頂いておりました。この度、責任役員という重きお役を任命いただくにあたり、基本を振り返り、見つめなおしていきたいと思ひ、この教団の『教規』を紐解いたところ、次の事柄が載っていました。まず始めに、「信徒は、教祖『明主様』の正道を受け継ぎ、病貧争絶無・真善美の大明光世界建設の使徒として利他の心を基本とし、授受の浄霊をもって心言行一致の実践に励み、この教団の発展に寄与するものとする。」とありました。さらに専従者はその「大明光世界建設に全身全霊を捧げる」とあり、「取次者として下座の行に徹し、常に自浄自戒に努め、信徒の模範となる。」とありました。

新たな年を迎え、光守様より教団方針「信徒よ、速やかに目覚めよ、それは光を受け、邪を捨て、光を授け、正に生きる」とあると賜りました。『吾、人類に告ぐ』の神言と共に、正に責任役員として教団を守り、大明光世界建設に全身全霊を捧げる覚悟で、信徒の模範となるよう努めてまいります。

大光明、明主様、今後の活動に御守護賜りますようお願い申し上げます。光守様、これからも一層の暖かいお見守りをお願いいたします。

まだまだ問題も山積みです。須玉問題、信徒数の激減、高齢化、新規会員の獲得、継承問題、専従者の獲得、頭の痛い悩みですが、信徒代表会で皆さんやる気が出て、大変有意義でしたという意見が多かったようです。これは大変心強いですね。今後とも宜しくお願ひ致します。「御面を朝夕べに仰ぎます 毎に悩みは消えてゆくなり」明主様に知恵と叡知を頂き、物事に対処して明るい教団造りに励んでいきたいと思ひます。

今年の教団方針を賜りました。「信徒よ、速やかに目覚めよ、それは光を受け、邪を捨て、光を授け、正に生きる事である」

私達は、明主様に愛されるように努力することが人から愛され、仕事への成功を生み、御用の成果を生み、幸せを許されることだと思ひます。新役員と力を合わせ、協力し、教団方針に基づき進んでいきたいと思ひます。

「なにも考えずに、神様の道具になり切る。そうすれば必ず御守護が頂ける」という明主様の言葉を心に刻みながら。今年辰年、「陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって、大きく成長し、形がととのう年」だといわれています。今年明るい年になりますよう皆様宜しくお願ひいたします。



シリーズ **火水土の恵み** コーナー

令和5年
火水土の恵み感謝祭
トピックス



数年ぶりの餅つきに一同大はしゃぎ



餅つき会の様子



過去の自然農法活動の資料展示



各教会祭典の様子を画像で紹介



滋賀教会農産物の展示

この度の火水土の恵み感謝祭では、コロナ禍規制緩和の流れから併せて東京教会十一月感謝祭並びにこども祭も同時に執り行われました。

約四年振りにこの祭典特有のイベントを開催しました。その内容は祭典での伊那農場の活動報告、伊那農場や各教会農作物の展示や農産写真の掲示、祭典後の伊那水田新米の試食会と餅つき会です。

東京本部では火水土のイベントを開催するのイベントを開催するの初めです。それは、それを踏まえ、健美会並びに本部自然農法担当が中心となって検討と計画を重ねました。特に餅つきは、神成郷に長年保管していた「石臼」を使用することに

の祭典準備は前日に行いましたが、東京教会と伊那教会の信徒の皆様が一丸となって遅い時間までご協力頂き、知恵を出し合って無事に整いました。

そして、二十三日にいよいよ祭典が始まりました。この度の展示会場は礼拝堂脇の研修スペースに設けて、今までよりは規模が小さかったのですが、伊那農場農産物の他、幾つかの教会からもご提供頂いたものを展示しました。また、各教会で行われた展示の写真も掲示させて頂きました。祭典中には小林さんと戸塚による伊那水田の

この度の祭典後の試食会と餅つき会は多くの皆様が自主的にご協力頂きました。それにより無事に終了しました。

昨年十一月二十三日(木)に、東京本部にて火水土の恵み感謝祭が執り行われました。各教会では先行して十九日に執り行われました。その理由として、昨年神成郷が終い納めになり、その霊格を受け継ぎ東京本部が大御祭典の中心地となったからです。また併せて東京教会十一月感謝祭並びにこども祭も同時に執り行われました。

東京本部では火水土のイベントを開催するの初めです。それは、それを踏まえ、健美会並びに本部自然農法担当が中心となって検討と計画を重ねました。特に餅つきは、神成郷に長年保管していた「石臼」を使用することに

の祭典準備は前日に行いましたが、東京教会と伊那教会の信徒の皆様が一丸となって遅い時間までご協力頂き、知恵を出し合って無事に整いました。

そして、二十三日にいよいよ祭典が始まりました。この度の展示会場は礼拝堂脇の研修スペースに設けて、今までよりは規模が小さかったのですが、伊那農場農産物の他、幾つかの教会からもご提供頂いたものを展示しました。また、各教会で行われた展示の写真も掲示させて頂きました。祭典中には小林さんと戸塚による伊那水田の

この度の祭典後の試食会と餅つき会は多くの皆様が自主的にご協力頂きました。それにより無事に終了しました。

約四年振りにこの祭典特有のイベントを開催しました。その内容は祭典での伊那農場の活動報告、伊那農場や各教会農作物の展示や農産写真の掲示、祭典後の伊那水田新米の試食会と餅つき会です。

東京本部では火水土のイベントを開催するの初めです。それは、それを踏まえ、健美会並びに本部自然農法担当が中心となって検討と計画を重ねました。特に餅つきは、神成郷に長年保管していた「石臼」を使用することに

の祭典準備は前日に行いましたが、東京教会と伊那教会の信徒の皆様が一丸となって遅い時間までご協力頂き、知恵を出し合って無事に整いました。

そして、二十三日にいよいよ祭典が始まりました。この度の展示会場は礼拝堂脇の研修スペースに設けて、今までよりは規模が小さかったのですが、伊那農場農産物の他、幾つかの教会からもご提供頂いたものを展示しました。また、各教会で行われた展示の写真も掲示させて頂きました。祭典中には小林さんと戸塚による伊那水田の

この度の祭典後の試食会と餅つき会は多くの皆様が自主的にご協力頂きました。それにより無事に終了しました。



展示された伊那水田の稲穂



光守様による展示会場の御視察



展示品の説明を受けられている光守様



東京含め各教会農産物の展示



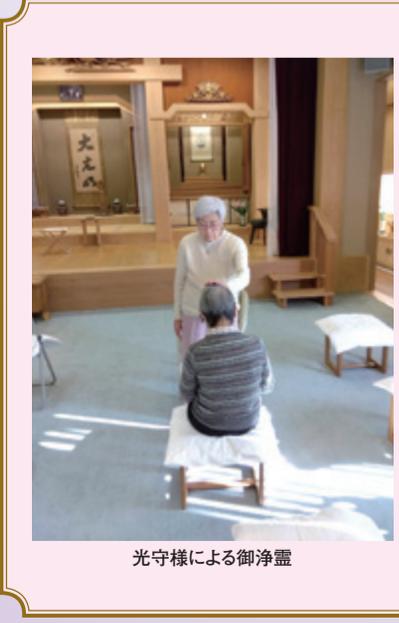
東京含め各教会農産物の展示



終い納めされた神成郷からも柿を展示

教団人事発令

令和五年十一月十五日付
木村泰彦 代表役員 辞任
十一月二十七日付
山崎明憲 代表役員 就任
以上となります



光守様による御浄霊

光守様のご浄霊日

今、わたくしに出来ることすべきことは「浄霊」です。一人でも多くの信徒さんと一対一で無心に誠心誠意の浄霊を交わすことです。わたくしの救いの光教団信徒である感謝の気持ちの集大成として厳肅なる礼拝堂で、明主さまの光に浴しながら浄霊を通して信徒の皆さんとさらに魂が繋がっていくことが出来ればと強く願っています。

一月十四日(日)、二十四日(水)、二十七日(土)
二月十一日(日)、十八日(日)、二十一日(水)

ただでなく、イベント自体がとても和気あいあいとしたとても楽しい気な雰囲気となりました。御苦労をお掛けしました皆様には心より感謝申し上げます。(記 戸塚)